

水俣病究明費が復活

阿蘇牧場にも四千万円

三十六年度予算は新道路計画、国鉄運賃、郵便料金など政治折衝中のものを除いてほぼ総ワクも固まり、各庁はいま計数整理を急いでいる。熊本県関係では、ほとんど絶望視されていた水俣病原因究明費が要求額の三分の一程度復活したのをはじめ、阿蘇の和牛牧場に約四千二百万円が計上された。

く日の目をみたことと、そのさい三十五年度で一応の目八ナをつけるといふ一札を入れているためだが、県選出国会議員や浜崎衛生部長など県幹部の強力な陳情が功を奏して、要求額のほぼ三分の一程度が復活した。厚生省（病理）は四十六万九千円（要求百十五万円）農林省関係（魚族保護）では西海区水産研究所調査費として約百万円（要求三百七十七万一千円）企画庁（水質調査）は水俣水域水質調査費として約百五十万円（要

求七百四十万円）がほぼ確定。

【阿蘇和牛牧場】要求額五千八百万円にたいして第一次査定は二千七百万円であったが第二次では二百六十六万円ふえ、第三次では約四千二百三十八万円に復活した。

【干害関係】農林省の干害恒久対策事業調査費として熊本県には一カ所百五十万円が決まった。候補地は戸馳と合志川だが、そのいずれになるかは予算配分が確定する四月にならないとわからない。